

# 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	農政課	
施策	21	農林業の振興	評価 責任者	吉田 充	内線 6032
小施策	21-1	経営力・生産意欲の向上と後継者の育成	評価 シート 作成者	鈴木 茂也	内線 6033

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化や後継者不足とともに、耕作放棄地の増加が懸念されることから、地域における「人と農地の問題」に取り組む必要がある。</li> <li>・営農活動における地球温暖化防止や生物多様性の保全などが求められていることから、減農薬、減化学肥料による特別栽培など、環境保全型農業に取り組む必要がある。</li> <li>・県内最大の消費地である地域特性を生かした農林業の展開を図るため、農工商連携や6次産業化、ブランド化による農畜産物の高付加価値化と販路拡大及び産直施設の経営強化への支援が必要である。</li> <li>・有害鳥獣による農作物被害を軽減し、農家の収益を向上させるため、有害鳥獣の捕獲及び被害防止対策を強化する必要がある。</li> <li>・市民の食の安心・安全を確保するため、東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質拡散への対策も引き続き行う必要がある。</li> <li>・地域林業を活性化するため、健全な森林の育成と市産材の利用を拡大する必要がある。</li> </ul>	<p>農業者・林業者の生産意欲が高まるような振興施策を展開するとともに、地域の特性を生かした多様な農畜産物の高品質・ブランド化により生産性が高く競争力のある産地の形成を図るため、盛岡産農畜産物のブランド力の向上をはじめとした「食」と「農」の連携を積極的に推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
農業者・林業者	生産性の向上及び生活環境の改善を図る。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 都市・農山村交流人口	単 位	目指す方向			
	人	↗			
当初値 (H25) 1,231,058	H31目標値 1,292,000	H36目標値 1,354,000			
<p>【指標から読み取れる成果点】</p> <p>①農業まつりの来場者数が増加した(10,600人→12,000人)。</p> <p>【指標に表れない成果点】</p> <p>②新規就農者数が増加した(14人→15人)。</p> <p>③もりおか短角牛の肥育農家数が増加した(2戸→3戸)</p>				<p>①主要な出品物となるりんごの出荷時期に合わせた開催時期の変更と、出店者・来場者双方の利便性が高い場所に会場を変更したことによる。また、盛岡産農畜産物の魅力を発信するイベントやお振舞ブースを設置したことも集客増につながった。</p> <p>②新規就農者の確保を目的とした対策(見学会、親元就農給付金)を実施したことによる効果と見込まれる。</p> <p>③肥育素牛の導入経費に対する補助制度を実施したことによる効果と見込まれる。</p>	
<p>【指標から読み取れる問題点】</p> <p>①グリーンツーリズム関連施設の年間利用者数が減少した。(312,855人→246,940人)</p> <p>【指標に表れない問題点】</p> <p>②新規就農者が認定農業者へ移行し、農業への定着を図ることが必要。</p> <p>③もりおか短角牛の肥育農家数と出荷頭数のさらなる増加を図ることが必要。</p> <p>④盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大の取組を進め、儲かる農業の実現を目指すことが必要。</p> <p>⑤市内の森林が、人工林を中心に利用期を迎えていることから、木材利用や再造林など、森林資源の循環利用の推進が必要となっている。</p>				<p>問題点</p> <p>①グリーンツーリズム関連施設の年間利生者数減少の主な要因は、ユートランド姫神の再整備を目的とした休館による影響であることから、整備完了後の来場者数は回復するものと見込まれる。</p> <p>②就農直後は農業経営が不安定になりやすく、就農者の所得が確保しにくいなど、新規就農者の農業経営は依然として厳しい状況が続いている。</p> <p>③肥育農家の高齢化や後継者不足が進み、生産基盤の弱体化が懸念されるなど、肥育農家の経営は依然として厳しい状況が続いている。</p> <p>④平成29年度に行った各種調査や議論の結果、盛岡市の食と農の課題は次の4点であることが見えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題1 盛岡産農畜産物の認知度向上</li> <li>・課題2 作る側と売る側の交流と連携の促進</li> <li>・課題3 盛岡市が「食と農」のまちというイメージの確立</li> <li>・課題4 使う側のニーズと生産状況を踏まえた戦略的な事業展開</li> </ul> <p>⑤木材価格の低迷などにより森林所有者の経営意欲が低下している。</p>	
				問題点	問題の要因分析

## 今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★☆☆1 農業まつりを通じて農業に対する理解の促進を図り、安全安心な食の啓発と地産地消を推進するとともに、新たに盛岡産農畜産物の魅力発信を行う。</p> <p>★☆☆2 親元就農給付金等、新規就農者の確保を目的とした対策を引き続き進めるとともに、新規就農者が認定農業者へ移行し、定着を図ることを可能とする取組が必要。</p> <p>★☆☆3 もりおか短角牛の導入経費に対する補助制度を引き続き実施することが必要。</p> <p>☆☆4 盛岡の食や農が多くの人に認知され消費されることで、食と農を目当てとする来訪者を増やし、また、農業・食産業の担い手を確保できるようになることを目指す。</p> <p>★☆☆5 森林資源の循環利用のため、市産材の需要拡大の推進が必要である。</p>	